

■ 令和元年度事業概要 ■

I 文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業

購入資料受入れ総数（図書・雑誌及び特別資料等）	843 点
寄贈資料受入れ総数（同上）	7,252 点
	8,095 点
整理・保存	収蔵資料のコンピュータ入力並びに寄贈目録の作成等
閲覧	利用者 延 4,008 人

II 展覧会事業

(1) 展覧会開催事業

事業名	実施時期 (日数)	観客数 (人)	展覧会の概要
常設展 北海道の文学	通年 (281 日間)	8,020	北海道の文学を時系列に従いつつジャンル別に構成し、解説している。ビジュアルな展示スタイルに主眼を置き、直筆原稿・遺品・初版本・書簡・写真などの貴重な資料約 1,350 点を紹介。 (◎展示構成を次頁に掲載。)
特別展 よみがえれ！ とこしえの加清純子 ～『阿寒に果つ』ヒロ インの未完の青春～	4/13(土) ～ 5/31(金) (42 日間)	6,338	渡辺淳一『阿寒に果つ』のヒロインのモデルとして知られる加清純子（1933～52 年）。15 歳で道展に入選し、後に中央画壇にも進出。天才少女画家として注目された。また同人誌「青銅文学」に鮮烈な小説や詩を発表。しかし突如、阿寒山中で 18 歳の生涯を閉じる。 本展では加清純子の絵画や数々の資料によりその稀有な才能と人物交流を紹介し、第二次大戦後の反権威世代（アプレゲール）の青春の鼓動に耳を傾けた。
特別展 弥次さん喜多さんとたどる江戸の旅 歌川広重 ふたつの東海道五拾三次 ～保永堂版×丸清版～	6/ 8(土) ～ 8/18(日) (62 日間)	9,171	江戸幕府が開いた東海道は、参勤交代や商人のほか、伊勢参りをはじめとする旅人が往来する大動脈であった。浮世絵師・歌川広重が描いた《保永堂版 東海道五拾三次》には、旅人や宿場の様子が情緒豊かに描写され、爆発的な人気を博した。そして広重は東海道シリーズを描き続け、その数は「丸清版」を含め 20 種類以上にのぼる。 本展では、『東海道中膝栗毛』の弥次、喜多の道中を追いながら、53 の宿場を前後期に分けて「保永堂版」と「丸清版」のふたつの東海道五拾三次を同時に展示、紹介した。
特別展 ノンフィクション作家・ 保阪正康の仕事 —「昭和史」との対話	8/31(土) ～ 11/ 7(木) (60 日間)	3,634	「昭和」とは、あの「戦争」とは何だったのか。保阪正康（1939 年生まれ、札幌市出身）は、「昭和」を生きた政治家、軍人などに取材を重ね、その証言や資料で実態を読み解いてきた。『東條英機と天皇の時代』上・下（1979・80 年）、『ナショナリズムの昭和』（2016 年）など多数の著書で日本の近現代史を検証し続ける保阪正康の仕事を紹介、次代に語り継ごうとしている歴史の教訓について考えた。
ファミリー文学館 人形劇からとび出した 人形たち	11/16(土) ～ 1/13(月) (46 日間)	2,265	みんなが知っている「シンデレラ」や「オズのまほうつかい」の人形たちが文学館にやってきた。 会場では人形劇の人形の展示や、親子で楽しめる絵本コーナー、簡単な指人形を作る手作りコーナー設置。また長く札幌市民に親しまれてきた「やまびこ座」「こぐま座」の歴史も紹介した。
特別展 砂澤ビッキの詩と本棚	1/25(土) ～ 2/28(金) (30 日間)	1,390	彫刻家・砂澤ビッキ（1931～1989）の蔵書の中には、20 代の頃に鎌倉で出会った澁澤龍彦や、澁澤が翻訳したサド侯爵をはじめとするフランス文学、国内外の小説や詩集などがみられる。それらの影響は、彼が手掛けた彫刻や素描、そして詩にも表れているといえる。 本展は、砂澤ビッキの蔵書、詩作とそれに関連した彫刻・素描、そして彼と親交のあった文学者に焦点をあて、その多彩な創作活動の根底にある深い精神性をさぐった。

【常設展アーカイヴ】

- 第1期展示〔4月20日(土)～6月23日(日)〕
三浦清宏—その遙かなる文学の道
室蘭出身の小説家・三浦清宏(1930年～)の作品を紹介。
- 第2期展示〔7月9日(火)～9月23日(月)〕
原田康子—「挽歌」のころ
原田康子没後10年、ブームを興した『挽歌』の周辺を紹介。
- 第3期展示〔10月5日(土)～12月15日(日)〕
八木義徳と北海道
没後20年。「摩周湖」などをとおして北海道の風土の表現を探る。
- 第4期展示〔1月4日(土)～2月28日(金)〕
北海道ゆかりの文学 2019年の主な受賞とトピックス
北海道ゆかりの受賞者たちと受賞した作品を紹介。
～同時展示～ 新発見 原民喜の「遺書」
新たに発見された原民喜の「遺書」を中心に関連資料とともに公開。

(2) 常設展の展示構成

〈北海道の文学、その歴史〉〔神谷忠孝・平原一良〕

◆20世紀への胎動 久保栄「五稜郭血書全5幕」自筆原稿、北方謙三「林蔵の貌」自筆原稿、高倉新一郎「札幌農学校」 ◆助走期の苦闘 有島武郎・木田金次郎宛書簡、武者小路実篤「武郎さんと僕」自筆原稿、雑誌「白樺」 ◆漂泊と彷徨 国木田独歩「欺かざるの記」複製原稿、幸田露伴「二日物語 此一日」複製原稿、石川啄木「雲は天才である」複製原稿 ◆道産子作家の誕生 武林無想庵「アルバム」自筆原稿、森田たま「きもの博士」自筆原稿、中戸川吉二・久米艶子宛書簡 ◆逆流のさなかで 小林多喜二「故里の顔」複製原稿、久保栄「火山灰地」自筆原稿、本庄陸男「逆流」自筆原稿 ◆モダニズムの台頭 伊藤整「文化的青春伝」自筆原稿、中村武羅夫自筆色紙、岡田三郎「かぼちゃ談義」自筆原稿 ◆戦火の中で 辻村もと子「馬追原野」自筆原稿、石塚喜久三「花の海」自筆原稿、坂本直行自筆カット原画 ◆復興と再生 畔柳二美「こぶしの花の咲くころ」自筆原稿、風巻景次郎「札幌地理学」複製原稿、船山馨遺品 ◆成長期の精華 雑誌「北海道文学」(原田康子「挽歌」掲載)、和田芳恵「五十年ぶりの帰郷」自筆原稿、李恢成自筆色紙、三浦綾子短冊(三浦光世筆) ◆変転する現代 高橋揆一郎「『伸子』覚え書き」自筆原稿、吉村昭「赤い人」自筆原稿、渡辺淳一「リラ冷えの街」自筆原稿

〈北海道の詩〉〔原子修〕

◆「現代の詩」の創造に挑んだ〈風の詩人〉たち 吉田一穂「魚歌」自筆扁額、小熊秀雄画「裸婦」 ◆「現代の詩」を北の大地に根づかせた〈土の詩人〉たち 更科源蔵「河童十二ヶ月」複製原稿、和田徹三「命」自筆原稿、河邨文一郎「オホーツク」自筆原稿 ◆「現代の詩」の新しい可能性を求めて 原子修自筆色紙

〈北海道の短歌〉〔内田弘〕

◆北海道歌壇の動き 小田観螢、並木凡平、酒井廣治、山下秀之助、伊東音次郎 ◆北海道歌人会 その主な活動 ◆歌人達の揮毫 野原水嶺、芥子澤新之介、小田観螢、宮西頼母、川村濤人、樋口賢治 ◆北海道を詠む 石川啄木、太田水穂、若山牧水、土屋文明、与謝野寛、与謝野晶子、斎藤茂吉、佐藤佐太郎、橋本徳寿、宮柊二、太田青丘、齋藤史、清原日出夫

〈北海道の俳句〉〔木村敏男〕

◆北方俳句の夜明け 松窓乙二、河東碧梧桐、牛島藤六、高浜虚子、長谷川零餘子、白田亜浪、石田雨圃

子、青木郭公ほか ◆俳句近代化への潮流 荻原井泉水、泉天郎、長谷部虎杖子、唐笠何蝶、細谷源二、土岐鍊太郎、伊藤凍魚、水野波陣洞ほか ◆花ひらく北の俳句 齋藤玄、寺田京子、比良暮雪ほか ◆俳句の現代 鮫島交魚子、園田夢蒼花、山岸巨狼ほか

〈アイヌの口承文芸〉〔青柳文吉〕

金田一京助、知里真志保、久保寺逸彦、金成マツ、知里幸恵、萱野茂

〈北海道の川柳〉〔斎藤大雄〕

◆明治～昭和初期 鈴木青柳、北村白眼子、亀井花童子、神尾三休、三輪破魔杖、井上剣花坊、鶴彬、西嶋〇丸、田中五呂八ほか ◆昭和後期～平成7年 西村欣童、高木夢二郎、森田一二、甲野狂水、古田八白子 ◆北海道の川柳社 道央、道南、道東、道北の各結社の活動と結社誌等を紹介

〈北海道の児童文学〉〔柴村紀代〕

◆明治～昭和20年代 伊東音次郎、支部沈黙、坪松一郎ほか ◆昭和30年代 石森延男、神沢利子、安藤美紀夫、渡辺ひろし、玉川雄介ほか ◆昭和40年代以降 加藤多一、後藤竜二、長野京子ほか

〈千島・樺太の文学〉〔木原直彦〕

夏堀正元、吉村昭、李恢成、寒川光太郎ほか

III 教育普及事業

注：「事業項目」の無印は道負担事業。※印は財団企画事業。

事業項目	事業名	実施時期(日数)	目標観覧(参加)者数(人)	観覧(参加)者実績数(人)	観覧(参加)率(%)	備考
講演会・セミナー・講話等	講演会「私の文学人生ー日本を脱出した青年が辿った道」 講師：三浦清宏（作家・心霊研究者）	5/6(月)		109		常設展関連事業
〃	オープニングセレモニー	4/13(土)		40		「加清純子展」関連事業
〃	記念講演会1「姉・加清純子の思い出」 講師：暮尾 淳（詩人、加清純子実弟）	4/13(土)	60	95	158.3%	〃
〃	ギャラリーツアー 講師：当館学芸員	4/20、4/21、4/29、 4/30、5/18、5/21 全6回	90	85	94.4%	〃
〃	ひとひら忌 渡辺淳一追想音楽会 出演：渡部大三郎、大平まゆみ、佐藤郁子ほか	4/30(火)	60	101	168.3%	〃
〃	上映会1「橋本奈々未の恋する文学ー冬の旅 渡辺淳一『阿寒に果つ』」	5/2(木)	60	83	138.3%	〃
〃	上映会2「もうひとつの『阿寒に果つ』ー米の自画像をたずねて」(2回)	5/4(土)	60	150	250.0%	〃
〃	記念講演会2「同級生・加清純子ーとこしえの芸術少女の魅力」 講師：荒巻義雄（SF作家）	5/12(日)	60	99	165.0%	〃
〃	展覧会企画者トーク「走れ！加清純子ー昭和20年代の青春」 講師：谷口孝男（当財団理事）	5/19(日)	60	85	141.7%	〃
〃	朗読会「加清純子をめぐって」 1 渡辺淳一「阿寒に果つ」 2 加清純子「無筆の画家」ほか 朗読：朗読ユニット ふたりしずか、鈴木栄子ほか	5/22(水)、5/23(木)	60	100	166.7%	〃
〃	オープニングセレモニー	6/8(土)		12		「歌川広重展」関連事業
〃	ギャラリー・ツアー 講師：当館学芸員	6/13、6/27、7/11、 7/25、8/8 各日2回全10回	110	156	141.8%	〃

事業項目	事業名	実施時期(日数)	目標観覧(参加)者数(人)	観覧(参加)者実績数(人)	観覧(参加)率(%)	備考
講演会・セミナー・講話等	記念講演会「江戸っ子たちの旅事情」 講師：山田順子(時代考証家)	6/23(日)	60	94	156.7%	「歌川広重展」関連事業
〃	特別展おもしろセミナー「広重とたどる、東海道名所・名産めぐり」講師：当館学芸員	6/29(土)	60	33	55.0%	〃
〃	職人実演会「よみがえる東海道五拾三次一浮世絵摺師のわざ」 実演・解説：三田村努(江戸伝承浮世絵手刷木版画摺師)	7/21(日) 2回	120	124	103.3%	〃
〃	オープニングセレモニー	8/31(土)		40		「保阪正康展」関連事業
〃	文芸講演会I「私の仕事の流儀」 講師：保阪正康(ノンフィクション作家)	8/31(土)	70	94	134.3%	〃
〃	文芸対談「ノンフィクションと歩む」 講師：保阪正康、梯久美子(ノンフィクション作家)	9/22(日)	70	211	301.4%	〃
〃	文芸講演会II「歴史に学び伝える」 講師：保阪正康(ノンフィクション作家)	10/12(土)	160	215	134.4%	〃
〃	人形劇公演「おいもの兄弟」「サンポのおはなし」 腹話術「あっちゃんとおそぼう」 出演：人形劇団ブランコ	11/17(日)	50	83	166.0%	「ファミリー文学館」関連事業
〃	人形劇公演「だるまちゃんてんぐちゃん」ほか 出演：人形劇団ひよっこ	11/24(日)	50	65	130.0%	〃
〃	人形劇公演「わらのうし」「シンデレラ」 出演：やまびこ座・こぐま座パペットユーススクール	12/ 1(日)	50	94	188.0%	〃
〃	ワークショップ「人形造り」 出演：やまびこ座・こぐま座パペットユーススクール	12/ 1(日)		58		〃
〃	人形劇公演「うさぎのいえ」ほか 出演：人形劇団てんてこまい	12/ 7(土)	50	38	76.0%	〃
〃	人形劇公演「ぼくはガリガリ」ほか 出演：人形劇団えりっこ(札幌市：専門劇団)	12/14(土)	50	46	92.0%	〃
〃	人形浄瑠璃公演「二人三番叟」「東海道中膝栗毛 卵塔場の段」「祝い唄」 出演：さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座	1/ 9(木)	50	62	124.0%	〃
〃	ワークショップ「三人遣い体験」 出演：さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座	1/ 9(木)		46		〃
〃	オープニングセレモニー	1/25(土)		50		「砂澤ビッキ展」関連事業
〃	オープニング・トーク「砂澤ビッキの遺したもの」 講師：砂澤涼子(砂澤ビッキ夫人)、工藤正廣(当館館長)、浅川泰(当財団理事)	1/26(日)	70	95	135.7%	〃
〃	文芸マチネー 朗読&トーク「砂澤ビッキと江原光太との交友から 詩人たちとの出会い」 朗読：田村英一(元・北海道放送アナウンサー)、 解説：浅川泰(当財団理事)	2/ 8(土)	60	65	108.3%	〃
〃	ギャラリー・ツアー 講師：当館学芸員	2/15、2/22 (中止3/14)	30	21	70.0%	〃
〃	講演会I「砂澤ビッキの本棚」 講師：酒井忠康(美術評論家・世田谷美術館館長)	2/23(日) 中止	70	0	0.0%	〃
〃	講演会II「砂澤ビッキと澁澤龍彦 その文学的・芸術的交友から」 講師：巖谷國士(仏文学者・作家・美術評論家)	3/ 7(土) 中止	70	0	0.0%	〃
夏休み文学道場	「中・高生のための創作講座」	7/31(水)～8/2(金)	30	15	50.0%	

事業項目	事業名	実施時期(日数)	目標観覧(参加)者数(人)	観覧(参加)者実績数(人)	観覧(参加)率(%)	備考
小・中・高生短歌コンテスト	小・中・高生を対象に作品を募集し、優秀作品を表彰するとともに、当館ロビーに作品展示	募集 7/2(火)~9/10(火) 展示 12/7(土)~1/26(日)	3,700	6,132	165.7%	
〃	小・中・高生短歌コンテスト表彰式	12/ 7(土)		51		
ファミリー文学館	ワークショップ「手作りコーナー」 講師：当館職員	11/16(土) ~1/13(月)	100	320	203.0%	
わくわくこどもランド	紙芝居、読み聞かせ、工作教室などに親子で参加	14回開催 (3/1中止)	600	327	54.5%	
映像作品鑑賞のつどい	「愛と死を見つめて」	5/26(日)	60	35	58.3%	
〃	「真夜中の弥次さん喜多さん」	7/28(日)	60	85	141.7%	
〃	「日本のいちばん長い日」	9/15(日)	60	75	125.0%	
〃	「聖の青春」	11/10(日)	60	38	63.3%	
市町村連携事業 「文学館出前講座」	市町村、学校、文化団体等との共催で講演会等を開催	18市町村 20会場	1,500	1,304	86.9%	
市町村連携事業 「ミニ巡回展」	市町村、学校、文化団体等との共催で講演会等を開催	6市町村 6会場	1,300	2,229	171.5%	
文字・活字文化 振興事業	「北海道文学館公開歌会・句会」 出演：(コーディネーター) 月岡道晴 <パネリスト> 大塚亜希、五十嵐秀彦、浪越靖政 <実作者> 短歌、俳句、川柳各2名	10/27(日)	70	61	87.1%	
古典の日記念朗読会	朗読：ドラマチックリーディンググループ蔵	11/ 2(土)	80	62	77.5%	
月例朗読会	朗読：ドラマチックリーディンググループさ・く・らほか	年9回 (3/12中止)	600	461	76.8%	
文化施設連携事業	「カルチャーナイト2019」 展示室の夜間開館、講演と落語、コンサート等を実施	7/19(金)	320	316	98.8%	
文学資料の利用	閲覧室での研究、調査、読書等	通年(281日間)	1,500	4,008	267.2%	
文学愛好団体の活動	文学愛好団体が講堂利用(貸館)	通年(281日間)		1,163		
負担金事業計			11,800	19,331	163.8%	
※ 文学館カレッジ	・俳句の世界、画像でたどる好短篇、絵本、生涯読書会、川柳講座の5講座	5~ 2月	500	462	92.4%	
※ 文学館カレッジ講演会	「芥川賞受賞作家・三浦清宏さん(卒寿)記念トーク」(鼎談) 講師：三浦清宏(小説)、工藤正廣(当館館長)ほか	10/ 6(日)	150	60	40.0%	
※ ロビーコンサート	「秋の夜の音楽会パートⅠ」 「秋の夜の音楽会パートⅡ」	11/2(土)、11/3(日)	120	124	103.3%	
※ 中島公園 ぶんがく縁日2019	同人誌・図書等のフリーマーケット、公開歌会・句会、文芸トーク	10/13(日)、 10/14(月)	200	293	146.5%	
※ ぶらり文学散歩	身近な土地と文学の関わりを解説	6/18(火)、9/10(火)、 10/29(火) 全3回	30	27	90.0%	
※ 文学館まつり	講演会、親子手作りコーナー、秋のミニ色紙づくりなど	9/23(月)	300	110	36.7%	
※ ロビー展示	文学への関心等を促すため収蔵品資料等を展示	4/23~7/7、7/13~ 9/23、10/5~11/24、 2/12~2/28 全4回		17,214		
※ 小学生向け事業	「文学館たんけんクイズ」	通年(281日間)	100	64	64.0%	
※ 文化公演の活動	コンサート、朗読会の会場に利用	閉館後の夜間	600	510	85.0%	
自主企画事業計			2,000	18,864	943.2%	
			13,800	38,195	276.8%	

IV 北海道文学に関する調査研究事業

- ① 特別展「よみがえれ！とこしえの加清純子」展関連資料調査
- ② 特別展「歌川広重 ふたつの東海道五拾三次」展関連資料調査
- ③ 特別展「ノンフィクション作家・保阪正康の仕事」展関連資料調査
- ④ ファミリー文学館「人形劇からとび出した人形たち」展関連資料調査
- ⑤ 特別展「砂澤ビッキの詩と本棚」展関連資料調査
- ⑥ 特別展の図録作成に要する調査
- ⑦ 次年度の特別展「『ねないこだれだ』誕生 50 周年記念せなけいこ展」関連資料調査
- ⑧ 次年度の特別展「太宰治 創作の舞台裏」展関連資料調査
- ⑨ 次年度の特別展「作家たちの交差点—『北の話』が残した時間」展関連資料調査
- ⑩ 次年度のファミリー文学館「おいしい！美味しい!! 文学」展関連資料調査
- ⑪ 次年度の特別展「天災地変人禍に抗す—北海道の災害記録と文学—」関連資料調査

V 文学愛好団体等の活動に対する支援事業

次の団体の事業に対して、後援並びに共催により支援した。

- ① 中川町教育委員会
斎藤茂吉記念第 26 回中川町短歌フェスティバル
(令和元年 6 月 1 日～7 月 20 日 中川町)
- ② 間宮匠マンドリンリサイタル実行委員会
間宮匠マンドリンリサイタル
(令和元年 6 月 2 日 北海道立文学館地階ロビー)
- ③ 新緑のバロック実行委員会
新緑のバロック
(令和元年 6 月 20 日 北海道立文学館地階ロビー)
- ④ エンサラダス・デ・ムジカ
双弦と歌～風に乗って届け古の旋律よ
(令和元年 6 月 23 日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑤ 松田弦ギターリサイタル実行委員会
松田弦ギターリサイタル
(令和元年 7 月 15 日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑥ ヴァイオリン&クラシックギター「奏の調和」実行委員会
ヴァイオリン&クラシックギター「奏の調和」
(令和元年 9 月 8 日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑦ 北海道スウェーデン協会
北欧と風のささやき ダニエル・ウィクスルンドコンサート
(令和元年 10 月 3 日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑧ NHK 文化センター朗読教室 松井信子クラス
第 21 回 北海道ゆかりの文学を読む 朗読会
(令和元年 10 月 20 日 北海道立文学館講堂)

- ⑨ 札幌アマデウス室内合奏団
札幌アマデウス室内合奏団 2019・演奏会
(令和元年 11 月 16 日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑩ 特定非営利活動法人絵本・児童文学研究センター
絵本・児童文学研究センター 第 24 回文化セミナー「はじまりの日」
(令和元年 11 月 17 日 小樽市民センター (マリンホール))
- ⑪ オーボエとピアノの奏実行委員会
オーボエとピアノの奏
(令和元年 11 月 24 日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑫ 札幌大学熊谷ユリヤ研究室
朗読とショパンなハーブたち
(令和元年 11 月 26 日 札幌市時計台ホール)

VI 啓発広報事業

- ① 事業案内、各展覧会ポスター・ちらし及び講演会・セミナーちらし等を制作・発行し、道内外の文学館、道内の博物館や図書館、札幌市内の地区センター、区民センター、カルチャーセンター、主要ホテル、観光案内所等に配布した。又、地下鉄各駅構内にポスターの掲示を行った。更に、展覧会の開催を PR するため、新聞紙上で有料広告のほか TV スポット CM を行った。
- ② 「北海道文学館報」第 117 号(5 月 9 日付)、第 118 号(8 月 2 日付)、第 119 号(10 月 23 日付)、第 120 号(3 月 10 日付)を発行した。

VII 刊行物の刊行事業

- ① 特別展「よみがえれ! とこしえの加清純子 画と文と」の刊行
- ② 特別展「ノンフィクション作家・保阪正康の仕事―「昭和史」との対話」図録の刊行
- ③ 特別展「砂澤ビッキの詩と本棚」パンフレットの刊行

VIII その他の付帯事業

- ① 博物館実習生の受入
博物館実習生—15 名(受入期間 5 月～3 月。実習期間 2 週間)